

課題対応取組報告書

【共通】

名称	天下茶屋地域総合相談窓口			
提出日	令和	7	年	6月13日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☒ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	ひとり暮らし高齢者、高齢者夫婦の孤立防止の居場所づくり	
地域ケア会議から 見えてきた課題	当圏域では、ひとり暮らしの高齢者、または高齢者夫婦が多いが、子供が自宅近くに住んでいるケースが少ない。ケースワーカー、ケアマネジャーが付いていない高齢者に対し、地域住民から情報を取りながら、独居の高齢者、高齢者夫婦で、地域との繋がりが希薄な方を見つけ出し、地域参加を促すことで地域の見守りを行う必要がある。(前任者からの引き継ぎ)	
対象	・地域の高齢者 (地域連合登録者75歳以上が中心) ・地域の支援関係者 (民生委員、婦人会、大家、ケースワーカー)	
地域特性	天下茶屋総合相談窓口(ランチ)のある東部圏域では、65歳以上の人口割合41.2%(24.6%)、単独世帯71.5%、保護率22.5%(4.9%)、出生率3.3%(6.7%) *()内大阪市 ひとり暮らし高齢者、高齢者夫婦世帯が多く、地域の行事、活動も少なく孤立し易い。	
活動目標	・民生委員、ケースワーカー、東部包括支援センターと連携し、地域と繋がっていない高齢者へ、総合相談窓口(ランチ)の周知活動を行う(個別訪問、チラシのポスティングなど) ・ケアマネジャー、大家に、総合相談窓口活動の周知と合わせ、百歳体操などの行事への参加の助めの協力要請する。	
活動内容 (具体的取組)	【高齢者の社会参加機会の周知】 ・地域連合登録者(70歳以上)を中心に、個別訪問、ポスティングなどの周知活動を行う。(計270名登録中、個別訪問150名(対面70軒・ポスティング80軒 *夫婦2人=1軒) ・地域内の大家より情報を貰い、孤立の可能性のある高齢者を同行訪問し聞き取りを行う。 ・ケアマネジャーより、連れ合いが亡くなる等で一人暮らしとなり、孤立の恐れのある方の情報を貰い訪問。 * 以上の対象者に社会参加を促すため、百歳体操の開催日を週1日から2日に増やし、手作り倶楽部という新たな行事を月2〜4回開始した。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・地域連合登録者(70歳以上)の個別訪問で対面した方の中で、独居又は高齢者夫婦の方で、地域との繋がりが希薄で孤立化が懸念される約40名を確認した。 ・地域連合登録者の名簿で、死亡された方、家が見つからない方、転居されている方など、情報が更新できていない方もあり、大家、民生委員、近隣住民に情報提供を協力頂く中、総合相談窓口(ランチ)の活動をより深く認識して頂くこともでき、地域での共生の必要性を感じて頂けた。それにより、地域連合登録者以外の方で生活課題がある方へ、総合相談窓口(ランチ)や地域包括へ相談に行くことを勧めて頂くなど、相談に繋がったケースがあった。 ・ケアマネジャーから地域行事を紹介して頂いた方は、初回参加率・参加継続率が高く、さまざまな理由で独居となられた方に、生活環境変化のタイミングで社会との繋がりを持って頂くことができ、家族の介護保険での繋がりが断たれた時点での孤立化を防げた。 ・従来からの行事参加者においても、新たな行事開始で、より社会参加の意識が高まり欠席率が減り、介護予防の意識が高まった。	
今後の課題	・地域連合登録者個別訪問で対面した方のほとんどが、地域包括・高齢者相談窓口の存在もしくは役割をご存知なく、さらなる周知活動が必要である。また、今年度は地域連合登録者への周知活動から始めたが、実際には登録者以外の方の孤立化がより高いと予想されるため、今後は地域住民全体への周知活動を考える必要がある。 ・初見での対応で救急搬送した方の中、伴侶の認知状態に問題があることで重篤に至っていたケースが2件あった。初見の対応がしっかりされていても、高齢者夫婦である場合、継続的な見守り支援で生活課題や心身の状態を把握する必要がある。 ・社会参加を促しているが、現状、行事への参加人数に限りがある。現状の使用可能な施設を使い、より多くの方に参加して頂ける行事を検討する必要がある。	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日		
令和 7 年 7 月 16 日 (水)		
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	地域住民や大家、ケアマネジャー等と連携し、積極的にアウトリーチを行い、孤立しそうなひとり暮らし高齢者や夫婦世帯を支援につなげようとし、新たに「手作り倶楽部」を実施する等、地域の居場所づくりや介護予防に貢献することが出来ている。	